

人材育成研修「初級者」南さつま会場 アンケート結果

日 時：平成29年2月17日（金）

場 所：南さつま市総合福祉センターふれあいかせだ 研修室

参加者：26名 回収：25名

1. 研修理解度（できた 1 2 3 4 5 できなかった）
実践活用度（役立つ 1 2 3 4 5 役立たない）

第1部 認知症ケアの基本的知識

研修理解度

理解度	人 数
1	17
2	8
3	0
4	0
5	0

実践活用度

活用度	人 数
1	20
2	5
3	0
4	0
5	0

第2部 対人援助のケア技術

研修理解度

理解度	人 数
1	16
2	9
3	0
4	0
5	0

実践活用度

活用度	人 数
1	17
2	8
3	0
4	0
5	0

第3部 身体観察の基礎知識

研修理解度

理解度	人 数
1	14
2	9
3	1
4	1
5	0

実践活用度

活用度	人 数
1	17
2	6
3	1
4	1
5	0

第4部 プロフェッショナルな介護職になるために

研理解度

理解度	人数
1	17
2	5
3	3
4	0
5	0

実践活用度

活用度	人数
1	18
2	5
3	2
4	0
5	0

印象に残った内容

第1部

- ◇ 認知症の方のケアの技法。(他数名)
- ◇ 認知症の定義、種類など。
- ◇ 7つの対応のポイント。
- ◇ B P S Dは治せる(改善できる)ということ(他数名)
- ◇ 認知症ケアの知識(他数名)
- ◇ B P S Dの大切さ。
- ◇ 認知症について、中核症状のことを深く教えてくださってありがとうございます。これからその知識を介護の仕事で役立てていきます。
- ◇ 全て
- ◇ 普段、利用者に何気に発していることを、自分が言われた時に、“はっ”とした。
- ◇ 「感性を持っていること」心に入れて仕事した。
- ◇ 文章の意味について。
- ◇ コミュニケーション、情報の共有、チームケア。
- ◇ 認知症を持っている人の気持ち。
- ◇ 認知症は治らないので、介護する人が変わらないといけない。
- ◇ 技術力も大事であるが、心のケアが大事。
- ◇ 認知症もおひとりおひとり違うので、その人に寄り添える介護を目指したい。
- ◇ 認知症を引き起こす主な病気。
- ◇ 認知症の中核症状とB P S Dについて。(他数名)
- ◇ 中核症状について理解でき、日々実践していけること。
- ◇ 1番多い認知症→アルツハイマー型。
- ◇ 認知症になっても人、心はもっている。プライドがある。羞恥心がある。感性をもっている。
- ◇ 中核症状を理解したうえで接する大切さ。
- ◇ 認知症には様々な種類があり、細かい特徴があることを知れて良かった。
- ◇ グループワークを初めてし、意見を出し合って話をするという作業が楽しかった。

た。

- ◇ 中核症状は治らないが、BPSDは自分たちのかかわり次第で改善できるんだ！！

第2部

- ◇ 自己覚知の大切さ。(他数名)
- ◇ BPSDを発症させる要因として、自分たち(人)の関わりがあること。
- ◇ BPSDは和らげることが可能であること。
- ◇ 認知症の人が持っている力を活かす。
- ◇ 他人を理解するために、自分を理解する。
- ◇ 対人援助に意味。
- ◇ 自分自身の心と体、これから大切にします。
- ◇ 全て
- ◇ 自分を知って、利用者様のことを把握したうえで、助言、介護の充実に繋がる。
- ◇ ふだん困っている内容が参考で出てきたので、今後どういう風に対処したらよいか、少し見えてきた。
- ◇ その人それぞれの人生を知っているか、それを知ったうえでケアできているか。
- ◇ パーソン・センタード・ケア。ご本人の声に耳を傾け、同じ目線で。
- ◇ 認知症状などについてのこと、大変わかりやすかった。人としてのかかわり。
- ◇ 知識や技術だけでは援助できない。共感ある気持ち、理解しようとする姿勢が大事。
- ◇ その人を良く知り、人はみな助け合いながら生きている。
- ◇ 日常生活において人はみな助け合いながら生きている。
- ◇ 利用者の方々の気持ちを汲みとり、寄り添える介護を目指して頑張りたいです。
- ◇ グループワークの大切さ。
- ◇ 対人援助のケアの技術について。
- ◇ なるほど！と思うこと多々あり。
- ◇ 思いやりをもって接していれば伝わる。
- ◇ ケアする側がきっかけになり、状態が悪化することもある。悪循環である。
- ◇ 入所者様1人ひとり違うことを頭にいれておく。
- ◇ 相手は自分の「合わせ鏡」の関係ということ。
- ◇ 自分の意見を話すだけでなく、利用者さんに耳を傾け、相手の気持ちを考えて、明日から取り組みたい。
- ◇ 利用者様の思い、気づき、何がして欲しいのか。
- ◇ パーソン・センタード・ケアとは。
- ◇ 何のためのケアなのか深く考えるクセをつける。(マズローの)
- ◇ 問題に気づく→利用者が悪いのではなく、他の要因。
- ◇ 利用者は変えられないが、スタッフは変えられる。

第3部

- ◇ バイタルサインの大切さ・意味(他多数)。
- ◇ 日常の利用者さんの平常値を知っていることの大切さ。

- ◇ 尿路感染症。
- ◇ やってはいけない介護。(他数名)
- ◇ 事故の対応の方法。
- ◇ 身体観察について詳しく学びました。これからの仕事に活かして頑張ります。
- ◇ 医療的な介助。
- ◇ 救急時などの対応。
- ◇ 連携プレイ。
- ◇ まだケガや病気の場面に立ち会ったことがないので、いろんな場面があることを学べた。
- ◇ 転倒時の対応。(他数名)
- ◇ 口腔ケアの意味。
- ◇ 疾患別の対処法。
- ◇ 人体的な知識の説明でよかった。
- ◇ バイタルサインチェック法、正常値
- ◇ 救急連絡の仕方。
- ◇ なにかが起こってからでは遅い。日常の観察する力が大事である。
- ◇ 身体観察の基本知識が大変勉強になった。
- ◇ 今一度振り返ることができてよかった。
- ◇ てんかんの話。
- ◇ 表皮剥離の応急処置。(他数名)
- ◇ 脱水やうつ熱処置。
- ◇ 個人のバイタルを知る。日頃と違う変化に気づくこと。
- ◇ 症状に対しての行動。
- ◇ 口腔内の清潔さと心臓のつながり。
- ◇ 色んな病気の基礎知識。(他数名)
- ◇ バイタル測定方法も分かりやすくて良かった。
- ◇

第4部

- ◇ 介護のプロとして自分が何ができるか、しっかり信念をもって利用者様のケアにあたること。
- ◇ アマチュアではなく、プロフェッショナルでなければならないこと。(他数名)
- ◇ 自分はプロだと思い仕事する。
- ◇ 利用者さんにもっと寄り添って、利用者さんのこと、気持ちを知る。
- ◇ プロフェッショナルの意味。自分がもうプロであるという話。
- ◇ 今日の研修で再度、目標を決めることができました。ありがとうございました。明日からの自分に「プロフェッショナルの目標」に決めたことに向けて頑張ります。
- ◇ 全て
- ◇ 自分自身、「プロ」「アマ」という言葉にこだわらない。
- ◇ 自分は介護職になったばかりで勉強することが多いが、利用者さんたちの笑顔

を見るために、また明日から頑張ろうと思います。

- ◇ 「K」を意識しながら、これからの仕事をしていきたいと思います。
- ◇ 自分に足りないものを常に追求し、自分のスキルアップに繋げていきたい。
- ◇ 人の立場に立って、色々な目線で考え、質の向上を目指す。
- ◇ 介護職としてのレベルがいくら高くても、一番の大事は関係性であること。
- ◇ 資質の中に豊かな感性をもつ。
- ◇ 1人ひとりに提供していく。
- ◇ プロであるために「K」、+で考える事と感動した。
- ◇ 介護の仕事は悪いことばかりじゃなく、良いこともある。プラス面もある。
- ◇ 自分が変わることが大事（先輩や入居者様とうまくいくには・・・）
- ◇ この仕事を選んだ以上、プロフェッショナルにならないといけない。
- ◇ 先輩のアドバイスを鵜呑みにしない。
- ◇ 「まだプロフェッショナルじゃない」と思っていたが、自信がついたと思います。
- ◇ 相手の立場に立ってケアする。
- ◇ 福祉の構造。
- ◇ 今の自分はどの位置ですか？の内容。
- ◇ 自分がどう関われば先輩とうまく関われるか、利用者様と関われるか、相手がかわるのではなく、自分がかわる。

その他、意見や感想など

- ◇ 介護側のケアの時間もあってよかったのでは？
- ◇ 今日の研修を受けて良かった。また機会があれば研修を受けたい。
- ◇ プロとしての自分自身、自信ができました。
- ◇ 生きてて良かった。ここで良かったと思って頂けるような介護・ケアをしていきたい。
- ◇ とても身になる時間でした。
- ◇ 新たな気持ちで仕事に勤めます。